

レポートコンテストについて

「2020 年度レポコン&ビジコン in 新潟大学」のレポートコンテストで、最終的に新潟大学工学部三年の渡邊美穂さんの「新潟の花火づくり」は最優秀として選ばれ、同じく新潟大学農学部一年の阿部藤吉郎さんの「長生きする新潟」は優秀として選ばれた。1 月 25 日に中小企業ナレッジネットワークセンターでの有元知史センター長は表彰状を呈した¹。

渡邊さんは、新潟大学経済科学部の新潟中小企業魅力発信演習という授業をきっかけとして、「新潟煙火工業株式会社」（以下は新潟煙火工業）に取材に行き、そこで聞き取りした内容で、「新潟の花火づくり」を題目としてレポートを作成した。

新潟と言えば、長岡市の長岡花火大会は、地域の伝統行事として例年開催され、毎年国内外から多くの観光客を引き付ける一大地域イベントとして知れ渡っている。新潟煙火工業は、その長岡花火大会で象徴的なフェニックス²の打ち上げに関わっており、他にも新潟県内外の多くの花火イベントや花火の競技会で打ち上げた経験を持っている。

渡邊さんのレポートによると、新潟煙火工業は、煙火作成の各段階で安全問題を大いに務め、観客の記憶に残るような花火に取り組むため「製作から打ち上げまで」すべての段階に心がけているということを知った。それは、「量より質」を考えている煙火産業の第一義的課題なのだろう。渡邊さんのレポートは、ケース・スタディとして新潟の煙火産業を我々に知らせてくれた優れたものと評価された（図 1）。

図 1 渡邊美穂に表彰状を呈した



¹ 安倍さんは、事情により午後に曾研究室で表彰状を呈した。

² フェニックス、新潟長岡花火大会での一大花火ショーである。2004 年に新潟県中越大地震が発生し、中越地方に位置する長岡市も、観光産業をはじめ多くの産業では大きな被害を被った。その時から、「大震災に負けずに頑張っていく」という気持ちで、象徴的な花火となるフェニックスを打ち上げることになった（出典：特定非営利活動法人ネットワーク・フェニックス、URL：<https://phoenix-hanabi.jp/pc/>）。

阿部さんは「長生きする新潟」を題目としてレポートを作成し、新潟県の良い点と問題点を取り上げている。その中に、老舗の多さ、地域の特徴に根差している中小企業、新潟ブランドの確立の重要性などが明確に取り上げられているが、人材不足や後継者不足など（どの地域においても同様ではあるが）の着実に向けねばならない問題点も論じられている。渡邊さんのレポートのようなケース・スタディではないが、阿部さんのレポートは、新潟県の良い所、及び近未来の問題点を我々に知らせてくれるものとして評価されている（図2）。

図2 阿部藤吉郎と優秀の賞状



問題は、老舗が多いことや、地域の特徴に根差していることや、それらはどうやって具体的に「新潟のイベント」に繋がらせていくか、そして定着性³と能動性⁴はどのようにバランス的に捉えていくかというのは、大学にいる我々研究者だけでなく、地域の現場に本当に根差している企業家たち（または起業家たち）にとっても考慮せねばならない課題なのだろう。

渡邊さんのレポートでは、新潟煙火工業は人材不足に直面していると論じられているが、地域の産業や、伝統技能のものづくり産業全体にわたる課題と言っても差し支えないのだろう。そこで、阿部さんの地域の特徴を発揮させて有能な人材を引き付けることは、確かに細心に注意を払う必要のあることではあるが、その地域の特徴をどのように定義し（地元の人たちにとって、また県外の人たちにとってどのような存在なのか）、どのような具体的な手法で発揮させていくかというのもまた、新しい課題として次々と湧いてくるのだろう。

いずれにせよ、渡邊さんの新潟煙火工業のケース・スタディ、そして阿部さんの新潟地域

³ 阿部さんのレポートでは、「企業を取り巻く環境は変化していく」と取り上げられている。

⁴ 阿部さんのレポートでは、「企業自身も変化を起こす必要がある」と取り上げられている。

中小企業の課題に関する全体的な問題提起のレポートは、我々に新潟に秘められているエネルギーとこれから向けねばならない問題を知らせてくれた優れたレポートとして評価されたのである。渡邊さんのレポートと阿部さんのレポートは、本サイトの「Industries/Firms」で掲載されている。

(文責：曾國哲・新潟大学経済科学特任助手・tsengkc@econ.niigata-.ac.jp)